St. Andrew's University

『成吉思汗實録』雑記

原　山　　煌*

『元朝秘史』(以下『秘史』と略)の日本初訳となった那珂通世博士の『成吉思汗実録』は,1907(明治40)年に大日本図書株式会社から初版が刊行された。初版刊行から30数年を経て,43(昭和18)年9月20日には,「再版」が「2000部」,筑摩書房より刊行された(奥付)。その際,「門弟」の有高巌は,「再版」の「序文」に「時局下蒙古研究の益々勃興せる際,筑摩書房の奉仕的出版に依り,茲に本書の再版を見るに至ったのは,真に学界の慶事」と「再版」の意義を説いている。

那珂の訳注書の重要性については,その後の『秘史』研究者の多くが指摘するところである。たとえば,小林高四郎は,「今日より観ても洵に驚嘆すべき精該博洽の註釈を施され,永く学界が重用措く能はぬ労作」と称しつつも,著書のなかでいくつかの「不測の誤謬」を指摘している。だが,それは未発達の研究段階に帰せられるべきで,その「責は『時代』に在った」といい,「[那珂]博士の訳註は苟も秘史研究者の何人もが必ず参稽」すべき書としている(小林1954:15,19)。那珂の訳註の60余年後,その後の研究成果を十分に盛り込んで3分冊として刊行された村上正二の『モンゴル秘史』の「はしがき」には,村上新訳書の最初の段階における企画は那珂訳注書の復刻にあったというが,そのことも前記小林の指摘を裏づけるといえよう(村上　1　1970:6)。特に,歴史学的観点から『秘史』を利用する際には,那珂の訳注書に付された厖大な註釈,特に漢文史料を遺憾なく駆使したさまざまな指摘は,現在でも大きな意味を保ち続けている。「必ず参稽」すべき所以である。

ただし,現在比較的多く通行している那珂訳註本の「再版」の編集方針には,いくつもの問題があるといわざるをえない。

第1に,出版に至る経緯の説明。同「序文」には,「然るに本書は,初版僅に数百部に限定されていたものと見え」,のちに入手困難となり古書価格も高騰したので「再版」を出したとある。ところが,これは事実ではない。07年初版が刊行された際,その直後に同じ大日本図書株式会社から再版が刊行されているのである。「明治四十年四月十八日再版」の刊記をもつものがそうである。したがって,先の文で「　」を付して「再版」とした43年出版にかかる版は,言葉の意味における再版ではない。

ちなみに,07年段階では2種の版が出版された。以下にその内容を示す。

(1)　初版(1907年1月18日発行):(a)扉頁。(b)4頁分にわたる粛親王の「寄上　那珂博士台啓　粛邸槭」と表題された書簡文(この一文は本書以外にも,『那珂通世遺書』(大日本図書株式会社　1915)の巻頭にも掲載する。裏面に「粛親王」と大書された紅白封書を2色刷で再現したもの。内容には直接のかかわりがないので,ここでは文を紹介しなかった)。(c)「成吉思汗実録の序論」(1—100頁)。(c)「成吉思汗実録の目録」(壹—拾陸頁)。(d)本文(1—676頁)。

(2)　再版(1907年4月18日再版発行):(a)扉頁。(b)「祭萍郷文廷式文」(1—3頁。本文末に資料1として付す)。(c)「成吉思汗実録の目録」(壹—拾陸頁)。(d)「成吉思汗実録の序論」(1—100頁)。本文(1—676頁)。

＊初版と再版とでは各部分の掲載順序が異なるが,構成各部分のページ数表記がそれぞれ1

*本学文学部

NII-Electronic Library Service

St. Andrew's University

頁起こしとされているので，どちらの版を用いても本文のページ数は一致する。

第2に，「再版」の巻末に置かれた筑摩書房編集部による「後記」に見える「翻刻」の方針の説明。1942（昭和17）年10月21日の日付を付されたこの「後記」には，6項目があげられているが，その概要は以下の通りである。

1［同「後記」には番号が見えないが便宜的に本稿筆者が付した。以下同］には，有高巌の監修のもとに「翻刻した」こと，2に「以下に記す二三の点をのぞいては，一字一句忠実に原本を復原した」こと，3・4には2の「二三の点」というべき改変の実例を挙げる。すなわち3には「原本のふりがなは片仮名であるが本書に於ては平仮名を用ひた」こと，4には「『元朝』のふりがなが，原本に於ては，『げんてう』『げんてふ』の二通りになっている。本書に於ては之を『げんてう』に統一した。此の如きもの二三」とある。なお，4の「此の如きもの二三」については，この「元朝」のごとき例示がないので，「後記」の文それ自体からは，どの程度の改変が加えられているのかわからない。5にはこの「再版」で新たに巻末に加えられた「索引，引用文献，年表，功臣表，諸部の人々」の説明，6は関係者への謝辞，以上である。

しかしながら，「以下に記す二三の点をのぞいては，一字一句忠実に原本を復原した」という部分は誤解を生じる恐れがある。「忠実に復原」されていない個所が散見されるからである。たとえば，「後記」に明記されなかった改変部分として，扉頁があげられる。07年版には「元の太祖太宗の時，漠北の文臣無名氏撰りたるを，日本明治三十九年，盛岡の那珂通世訳して注したる，成吉思汗実録。東京築地活版製造所にて印刷し，大日本図書株式会社にて発行す。」（「成吉思汗実録。」の部分だけ特段に大きい字で中央に置く）とあるが，43年版ではごく普通の扉の形式で縦に3つに区切った枠内に「那珂通世訳註／成吉思汗実録　全／筑摩書房刊」と，縦組みであらわされている。

だが，もっと重大な改変がおこなわれていることには，どうしたわけか後記はふれない。実は，この「再版」の構造は，割付からして07年刊行の初版・再版とは大きな違いがあるのである。

07年刊行にかかる初版・再版の本文部分の組み版は，二重線匡郭をもち，界線のない枠内に10行，各行約22～24字程度の字詰めで構成されている（図1）。匡郭上部には横線が引かれ，上層には各節冒頭あるいは文意が変わる部分などに内容摘記がなされる（あまり短い節では省かれることがある。巻1の15，16，29，36，37節など）。なお，見開き左右両端上部に「成吉思汗実録巻の一」のごとき表示が付される。各巻は必ず見開き左側の奇数頁から始まる。そのことによって，巻10の末尾などは本文が424頁一杯で終わり，各巻の最後に付される「成吉思汗実録巻の十終り。」が入りきらないので，423頁すべてと426頁の9行分が白地となっている。

ところが，43年発行の「再版」においては，本文部分の構成が変えられる。匡郭，ならびにその上部にあった横線がなくなる。本文部分は上部を空け，そこに内容摘記が置かれる。一見，07年刊行の版から枠線を取り去っただけのように思えるが，加えられた変化はそれだけにとどまらない。この版では，各頁は，行あたり25字程度の11行の字詰めとなる。要するに，頁あたりの字数が増量されているのである。ついでながら，内容摘記も行あたりの字数が増やされている。07年版では5字だったものが7字となっている（図2）。その結果，本文から引用をなそうとすると，07年版と43年版のページ数が相違するということになる。「必ず参稽」すべき文献として『成吉思汗実録』を利用する際，引用されているのと同じ版を参考しなければならないのである。みずからの手許にあるものと違う版が用いられていれば，改めて異版を確認しなければならないことになる。

43年版を造るとき，なすべきだったのは，07年版を影印するということであったろう。ふりがなを片仮名から平仮名になおした以外には目立った改変がないのだから，その方が復刊する際のコストも安くあがったはずである（第2巻

NII-Electronic Library Service

St. Andrew's University

100節1行目の「即ち」の漢字部分のふりがなが，07年版では「ナスハ」と誤っているのを，43年版では正しく「すなは」としているように，言及されない些かの改善も他の個所でなされているのではあろうが)。

いずれにせよ，43年版が，現在のような形で出版されたことにより，それ以後の利用者は，『成吉思汗実録』を参照する際に，要らざる手間を強いられる可能性が確実に生じたわけである。43年版巻末に付されたいくつかの関連資料も，こうしたデメリットと比べると，決定的な強みとはなりえないであろう。

以上述べた点からすると，43年版は明らかに編集方針を誤ってしまったといわざるをえない。本稿では，こうした不備を少しでも補うため，後に資料2として，07年版と43年版の各節の開始頁対照表を掲げておいた。参考にしていただければ幸いである。

引　用　文　献

小林高四郎『元朝秘史の研究』日本学術振興会　1954。

村上正二訳注『モンゴル秘史1　チンギス・カン物語』平凡社東洋文庫　163　平凡社　1970。

資料1

萍郷ノ文廷式ヲ祭ル文

日本明治四十年三月，文学博士那珂通世，謹ミテ撰リタル成吉思汗実録一部ヲ呈ゲ，以テ［抬頭がなされる］

清国翰林学士文芸閣先生ノ霊ニ告ゲマツル。嗚呼，先生弊邦ニ遊ビテ殆ド十年ナラントス。己亥ノ歳，先生余ガ友内藤炳卿ヲ介トシ，辱ク陋屋ニ臨ミ，談ハ史ノ事ニ渉リ，先生蒙文ノ秘史ヲ蔵スルコトヲ聞ケタマハルヲ得タリ。炳卿先生帰リテ後ニ其ノ書ヲ鈔シ寄セラレンヲ請ヒ，余モ切リニ之ヲ望ミ，先生許シ諾ナヒキ。既ニ而テ先生西ニ帰リ，幾モアラヌニ拳匪ノ乱有リ，音問久ク絶エキ。然ルニ先生敢ヘテ前ノ約ヲ忘レズ，鈔胥ヲ傭ヒテ淨写シ，辛丑之冬，白岩龍平ニ托ミ，転リテ炳卿ニ致セリ。巻首先生ノ序有リ曰ハク「此ノ書輾転シテ宗室伯羲祭酒ニ帰セリ。余乙酉冬ニ借リ得テ，順徳ノ李侍郎ト，各一部ヲ録キ写セリ。是ニ海内始メテ三部有リ，云云。又元ノ時ノ蒙文ハ，今解スル人無シ，故ニ元ノ碑ハ多ク読ムベカラズ，云云。日本ノ内藤炳卿ハ，我ガ邦ノ経史ニ熟シ精シク，却特一代ハ，尤モ意ヲ留ムル所ナリ。余故ニ此ノ冊ヲ鈔シテ寄セ奉ル。願ハクハ那珂通世君ト，詳稽発明シ，転ジ以テ我ヲ益セバ，幸甚ニ勝ヘズ」。其ノ後炳卿数満韓燕楚之地ニ遊ビ，其ノ書ヲ稽フルニ暇アラザリキ。余ハ家ニ居テ，専ラ蒙文ヲ究メ，拮据五年，漸ク訳シ出スヲ得タリ。是ニ七百歳ノ秘笈，始メテ世ニ著ハレ，天下ノ史ヲ講ズル者ハ，庶幾クハ是ニ由リ以テ東史ノ疏略ヲ補ヒ，西伝ノ訛謬ヲ訂シ，大蒙古勃興ノ真相ヲ詳ラカニ察スルヲ得ベシ。然ウ而テ余ガ斯ニ従事スルヲ得タル所以ハ，乃チ皆先生ノ賜ナリ。一本ヲ攜ヘ，趨リ謁シテ教ヘヲ乞ハント欲スレバ，先生久シク已ニ逝リタマヒヌ。嗚呼哀イカナ。竊カニ惟フニ，蒙古ノ文ハ，漢文ト趣ヲ異ニシテ，和文ト甚ダ相ヒ似タリ。漢文ヲ以テ訳セント欲スレバ，原文ノ大意ヲ領リ，鎔鋳シテ出サザルベカラズ。若シ夫レ和文ヲ以テ之ヲ訳スレバ，然ラズ。字ゴトニ訳シ句ゴトニ膩シ，増損スル所無ク，毫シモ原文ノ精神ヲ矯メズシテ，自ズカラ和文ノ法則ニ合フ。故ヲ以テ今訳シタルハ，乃チ和文ヲ用フ。顧フニ近年貴国ノ学生和文ニ通ズル者頗ル衆シ。若シ此ノ書ニ由リ，以テ少シノ裨益ヲ獲ル者有ラバ，余モ聊カ以テ先生ノ盛意ニ酬ユルヲ得ン。書ヲ捧ゲテ再拝シ，遙カニ江舶ニ托シ，謹ミテミ墓ノミ前ニ供ヘ，以テ清酌庶羞ノ奠ニ代フ。嗚呼哀イカナ。尚クハ饗ケタマヘ。

NII-Electronic Library Service

St. Andrew's University

資料2

07年版と43年版の各節開始頁対照表

巻・節	1907年版	1943年版
I		
1	1	1
2	2	2
3	3	3
4	4	3
5	4	4
6	4	4
7	5	4
8	5	5
9	6	6
10	7	6
11	7	7
12	8	7
13	8	8
14	9	8
15	9	8
16	9	8
17	10	9
18	10	9
19	11	10
20	11	10
21	12	11
22	13	11
23	13	12
24	14	12
25	14	13
26	15	13
27	15	13
28	15	14
29	16	14
30	16	14
31	17	14
32	17	15
33	18	15
34	18	16
35	18	16
36	19	16
37	19	17
38	19	17
39	20	17
40	20	17
41	21	18
42	21	19
43	22	19
44	23	20
45	23	20
46	24	21
47	26	23
48	27	24
49	28	25
50	29	25
51	30	26
52	30	26
53	31	27
54	32	28
55	33	29
56	34	30
57	36	31
58	36	32
59	37	32
60	38	33
61	39	34
62	39	34
63	40	35
64	41	36
65	42	37
66	42	37
67	43	38
68	44	38
II		
69	47	41
70	47	41
71	48	42
72	49	43
73	49	43
74	50	44
75	51	45
76	52	46
77	53	47
78	55	48
79	57	49
80	58	50
81	59	51
82	60	52
83	61	53
84	62	54
85	63	55
86	64	56
87	65	56
88	65	57
89	66	57

NII-Electronic Library Service

St. Andrew's University

巻・節	1907年版	1943年版
90	67	58
91	70	60
92	70	61
93	71	62
94	72	63
95	74	64
96	74	64
97	76	66
98	77	67
99	78	67
100	79	68
101	80	69
102	81	70
103	82	71
Ⅲ		
104	85	73
105	87	75
106	90	78
107	92	79
108	93	80
109	94	81
110	95	82
111	97	83
112	99	85
113	101	86
114	102	87
115	102	88
116	103	88
117	104	89
118	105	90
119	108	92
120	108	93
121	111	95
122	113	97
123	114	98
124	116	99
125	119	102
126	120	103
Ⅳ		
127	121	105
128	122	106
129	123	107
130	125	108
131	127	110

巻・節	1907年版	1943年版
132	128	111
133	130	113
134	132	114
135	133	116
136	134	116
137	137	119
138	139	120
139	140	121
140	141	122
141	143	124
142	146	126
143	148	128
144	149	129
145	151	130
146	155	134
147	158	136
Ⅴ		
148	161	139
149	161	140
150	167	144
151	169	146
152	171	147
153	174	150
154	176	152
155	179	154
156	180	156
157	182	157
158	183	158
159	184	159
160	185	159
161	187	161
162	188	162
163	189	163
164	191	164
165	193	166
166	194	167
167	196	169
168	199	171
169	201	173
Ⅵ		
170	205	177
171	210	182
172	213	184
173	214	185

NII-Electronic Library Service

St. Andrew's University

巻・節	1907年版	1943年版
174	216	187
175	218	188
176	219	189
177	220	190
178	232	199
179	233	200
180	237	204
181	238	205
182	241	207
183	248	213
184	250	215
185	252	217
Ⅶ		
186	257	221
187	258	222
188	261	224
189	263	226
190	267	230
191	271	233
192	274	235
193	276	237
194	279	239
195	283	243
196	290	249
197	293	251
Ⅷ		
198	297	255
199	301	259
200	306	263
201	309	265
202	314	269
203	331	285
204	335	289
205	337	290
206	340	293
207	341	294
208	343	295
Ⅸ		
209	349	301
210	350	302
211	352	304
212	353	304
213	353	305

巻・節	1907年版	1943年版
214	355	306
215	360	311
216	360	311
217	362	312
218	362	312
219	363	313
220	366	316
221	368	317
222	368	317
223	368	317
224	369	318
225	372	321
226	374	322
227	376	324
228	378	326
229	379	326
X		
230	383	331
231	384	332
232	385	333
233	386	334
234	387	335
235	389	336
236	391	338
237	392	339
238	394	341
239	397	344
240	403	349
241	406	351
242	407	352
243	410	354
244	411	355
245	415	359
246	422	365
続集 I		
247	427	369
248	439	380
249	442	383
250	445	385
251	446	386
252	451	391
253	455	394
254	460	398
255	469	406

NII-Electronic Library Service

St. Andrew's University

巻・節	1907年版	1943年版
256	473	410
257	475	411
258	494	429
259	499	434
260	513	446
261	520	452
262	521	453
263	532	464
264	536	468
続集Ⅱ		
265	559	487
266	567	494
267	569	496
268	576	503

巻・節	1907年版	1943年版
269	583	509
270	588	514
271	594	519
272	595	519
273	602	526
274	620	542
275	635	555
276	637	557
277	638	558
278	643	562
279	652	570
280	658	575
281	661	578
282	671	586

本稿は，文部科学省平成13年度科学研究費補助金・特定領域研究（A）「東アジア出版文化の研究」に係る「『満洲国』時代を中心とする『満蒙』関係刊行物の研究」による研究成果の一部である。

NII-Electronic Library Service

成吉思汗實錄卷の一。（蒙古語の原の名は、忙豁侖紐察脫卜察安、譯すれば蒙古の秘史、忙豁侖は蒙古の、紐察は秘密、脫卜察安は實錄なり。委しくは序論の初に言へり。明譯本には、元朝秘史と題して、その下に分注二行あり。右は、忙豁侖紐察の五字なり。左は、脫卜察安の四字なるべきを、今の鈔本には、卜の字を脫せり。卜は、母音なき巴行の音を譯せる字にて、細字旁書なるが故に影寫の際脫し易し。本文にも、卜の字の脫ちたるは、屢あり。二行の分注に、右五字にて左三字なる筈なければ、卜の脫ちたりけんこと疑ひなし。）

元太祖在時、漠北文臣無名氏、以蒙古文委兀兒字撰述。明洪武十五年、翰林侍講火原潔等、漢字音譯、俗語旁譯。日本明治三十九年、盛岡那珂通世、以和文直譯附校注。

成吉思合罕の根原。

元祖なる狼麗

上天より命ありて生れたる蒼き狼ありき。（蒙語孛兒帖赤那、蒙古源流布爾特齊諾。この注に引ける蒙古源流は、乾隆の史臣の飜譯せる漢文源流の本なり。昨年乙巳の九月、我が友内藤湖南は、盛京の官庫

図2　1943年版　本文部分冒頭

成吉思汗實錄卷の一。（蒙古語の原の名は、忙豁侖紐察脫卜察安、譯すれば蒙古の秘史、忙豁侖は蒙古の、紐察は秘密、脫卜察安は實錄なり。委しくは序論の初に言へり。明譯本には、元朝秘史と題して、その下に分注二行あり。右は、忙豁侖紐察の五字なり。左は、脫卜察安の四字なるべきを、今の鈔本には、卜の字を脫せり。卜は、母音なき巴行の音を譯せる字にて、細字旁書なるが故に影寫の際脫し易し。本文にも、卜の字の脫ちたるは、屢あり。二行の分注に、右五字にて左三字なる筈なければ、卜の脫ちたりけんこと疑ひなし。）

元祖なる狼麗

元太祖在時、漠北文臣無名氏、以蒙古文委兀兒字撰述。明洪武十五年、翰林侍講火原潔等、漢字音譯、俗語旁譯。日本明治三十九年、盛岡那珂通世、以和文直譯附校注。

成吉思合罕の根原。

上天より命ありて生れたる蒼き狼ありき。（蒙語孛兒帖赤那、蒙古源流布爾特齊諾。この注に引ける蒙古源流は、乾隆の史臣の飜譯せる漢文源流の本なり。昨年乙巳の九月、我が友内藤湖南は、盛

図1　1907年版　本文部分冒頭

St. Andrew's University
NII-Electronic Library Service